

今朝、聖十字教会に出席し嬉しく思っています。対面で礼拝を捧げ、人々と共に時を共有することは、まさに素晴らしい贈り物と感じております。世界大感染によって生み出された分離は、私たちに多くの影響を与えています。孤独、心配、恐れ、懸念、優先事項や未来についての疑問、などと苦闘しています。コロナウイルスに関連する規制は緩められ、多くの人々（すべてではない）が新鮮な空気を吸っています。そして人生でもっとも大切なのは何であるか、新しい視点に立っています。イエス・キリストを信仰する地域社会として、この社会分離の時世は、教会としてのあなたがたに影響を与えています。

しかし同時に過去19ヶ月ほどに渡って、素晴らしいことが聖十字教会で起きています。Lucy司祭がVancouver から転居し、教会から離れてしまったことで、たいへん困難な時を迎えられたでしょう。しかしその一方で、大いに喜ぶべきこともあったのです。Alecia司祭が赴任され、信じ難いほどの技量を備え、多くのエネルギーをもたらしました。そして福音への献身は、この教会を美しい新たな道へと導き、形作られるでしょう。私はAlecia司祭を数年に渡って知っています。みんながすでに気付かれているように、司祭の賜物である能力、感化力を知っています。それはとても素晴らしいのです。夏の清掃としてペンキ塗り、整頓、計画の再考などの多くの仕事を成し遂げられたことを聞いています。2週間前にはAtsumiさんとJustinさんの聖婚式が執り行なわれ、多くの人々に大きな喜びをもたらしました。残念なことに、参列を望んだすべての人が可能にはならなかったのです。しかし大きな喜びが聖婚式を前に進めたのです。愛が大感染に打ち勝ったのです。それは新しい未来が、声を持つことが許されたのです。聖十字教会で起きたすべては素晴らしい事です。私たちは今朝、今、ここにいます。たくさん喜ばしいことがあり、私たちは感謝を捧げます。

このことを覚えて、今日の福音書を取り上げてみよう。(マルコ8:27-38)

イエスと弟子たちはピリポ・カイザリアへ向かわれていた。私の心の目は、聖書に書かれているような道筋ではない。しかし私の心の目は、彼らが歩いているのは暖かい日である。彼らは人々が話す普通のことを話しており、その日の始まりや巡礼への出発などである。彼らは天候について、知人について、政治について、金融市場基金について、彼らが経験したユーモラスな出会いについて話している。彼らは他のすべでも話している。しかし突然の変化がおきる。それは風の向きが変わるような、あるいは気持ちが変わるような、あるいは温度が変わるような。会話は、軽い空気のような内容から、さらに深く、さらに核心へ移行する。世間話から、目的と意義へと移行する。私の4才の娘が先日私に話した内容から、神の臨在が聞かれたり知られたりする内容へと移行する。

日常のことから、人生で何がもっとも大切で中心となるかの思考へと移行する。
弟子たちはその過程でむち打ち症になるだろう。

『人々は、わたしのことを何者だと言っているのか』イエスは弟子たちの尋ねられた。
空港でパスポートを示すように、イエスが弟子たちにご自身のIDを求められていると推定
して、この質問に取り組むことができる。これがイエスの求められているすべてではない。
弟子たちは知っている。それは弟子たちを怖^{おじ}けさせるものである。

『ではあなたがたは、わたしのことを何者だと言っているのか』と、誤りに備えて質問を
変えられた。『あなたがたは、わたしのことを何者だと言っているのか』は、イエスの
両親の調査解明を求めるのではない。しかし『あなたがたは、わたしのことを何者だと言
っているのか』は、ある意味では「わたし故に、あなたがたは神の臨在と不思議さを今、
どのように理解しているのか」と尋ねられている。

わたし故に、あなたがたは今、どのように世界を見ているのかとイエスは尋ねられている。
わたし故に、あなたがたは、どのようにこの地球を歩くのかとイエスは尋ねられている。

イエスと従う者たちの昔の会話を、座って観察するのは気楽なことである。
そして彼らの怖^{おそ}けさと、ほぼ愚かな解答に笑ってしまいそうになる。
彼らの回りで起きているすべてを、彼らが見失ったようだと考える方が簡単である。
彼らはイエスと共に毎日歩いていたのだが。

『あなたは、メシヤです』と、ペテロと同じように明確に、率直に、確たる決意で
答えたと考える方が簡単である。しかし本当に私たちは答えたのだろうか。

イエスはメシヤであり、神の子であり、救い主であり、希望であり、慈しみであり、
神の言葉であり、神の知恵は唯一のものであると確信している。

イエスが救い主であると信じるのを認めることは、出発点であり到着点ではない。
このために私たちは、洗礼を授かるのだ。 洗礼の清水で額に十字架がしるされ、
唱えられる。「父と子と聖霊の名によってあなたに洗礼を施す」と私たちを越え、
私たちのために唱えられる。これは到着ではなく始まりである。

このナザレのイエスに従う者になるための意味であり、出発なのだ。

これらの言葉が唱えられ、私たちの巡礼の旅が始まる。

これは私たちの召命と信仰の深さ、意味、目的を明らかにする。

イエスは群衆を呼び寄せ、きわめて大切に彼らに言われた。『だれでもわたしについて来
たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい』。
そして少し後に言われた。『人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、
何の得があろうか』。

これは肝心なことが問われている個所である。

神を十分に信じていない。聖霊の存在を十分に確信していない。

祈りが人々のためにより考えだと十分に思っていない。

私たちが大きく変革し、変わることがなければ、神の愛を信じる確信が十分ではない。

その愛の深さ、広さ、高さをすばやく理解し、私たちは何になるべきか、何をすべきか、との神の呼び掛けを、十分に信じる確信がない。

私たちの信仰は、神の子がこの世界に来られ、直接に明確に『あなたがたは、わたしのことを何者だと言っているのか』と尋ねられでも、ただ座って聞いているのではない。

私たちの答えは、暗喩に満ち、神学教科書の返答のようにやや不確であってはいけない。

私たちの返答は、神が私たちの間に臨在されていることを知って、どのようにこの世界で暮らし歩んで行くかである。これはイエスが私たちに託された私たちの人生の一部である。神とのこの結び付きは、支えであり、人生の目的と意味である。

箴言の書はこのように記述している『知恵は巷に^{ちまた}呼ばわり／広場に声をあげる。雑踏の街角で呼びかけ／城門の脇の通路で語りかける。いつまで浅はかな者は浅はかであることに愛着をもち、不遜なものは不遜であることを好み、愚かなる者は知ることをいとうのか』(箴言1;20-22)。神の知恵を私たちはしばしば失っている。なぜなら私たちは、メシヤを定義するには余りにも忙しく、メシヤの存在の認識を見失っている。

ヤコブの手紙(3:1-12)からは、神の目的、希望、恵みを求めるより、どのように舌を制御して、どのように同じ口から賛美と呪いが出てこないようにするかを記述している。

イエスは「従う者は言葉を記憶するだけでなく、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と求められた。沈黙のうなずくだけの人ではなく、言葉の実行者となるのだ。

9月1日は、教会の創造のシーズン(the season of Creation)の始まりだ。

この美しい世界を瞑想する時間を設けるが、それで終わるのではない。

この地球の不思議さと驚異を認める時であり、それで終わるのではない。

木々、山々、穴、巣、水、雨、に感謝を捧げる時であるが、それで終わるのではない。

洗礼によってイエスの命、死、復活を認識するのだが、世界との結び付きを新たに

する使命が与えられている。私たちが破壊し続けるこの世界を、保護し対応する使命がある。

私たち自身を呼び起こし、神への信仰を貫くのだ。神は私たちに行動する使命を与えられ、単に静かにうなずくだけではないのだ。

この州で最近、寄宿舎学校での虐待の結末が表面に浮上している。

人々が引き起こした破壊と危害は、何世代にも及ぼしていた。

変革の願いを、単に確約することをはるかに越える癒しが必要である。
それには行動と計画が含まれ、すべての人間の尊厳重視を明らかにする。
せななら私たちの洗礼が、さらに前進することを命じているからだ。

この人生には多くの視点がある。私たちのさらなる思考を必要としている。
人々は私たちの祈り、祈りの言葉、祈りの行動を必要としている。
世界の難民は、人々の関心と新しい希望を必死に求めている。
アフガニスタンの国は、私たちの戦争への傾倒で根本的に破壊された。
住居の必要性は、本当の家、ホームレス終焉のため、市内周辺と国中で深刻である。
多くの人々が、薬物過剰摂取のために亡くなっている。
その間、私たちの多くは何もしないで傍観しており、たいへん大きな懸念である。
懸念材料のリストを、私は他の人々に広げようとは思わない。

私はこの説教を注意することから始めた。大感染は多くの人々に、優先事項、目的、願望
を再考慮することを伝えている。この賢明な視野を失わないように。
その賢明さは道端で、イエスの昔の質問を考慮せよと叫び、今だ、全世界に響いている。
『あなたがたは、わたしのことを何者だと言っているのか』。
熟考の末、おそらくは、私たちはイエスに会いに行く。そしてイエスもまた尋ねられる。
「人々は、私たちのことを何者だと言っているのか」。
それはこのイエスがメシアあるのを知った結果であり、私たちが洗礼を受けた結果である。
私たちの行動が、大きな反響を叫ぶように。

(文責長澤猛)